

第13回ITER理事会の開催結果について



平成25年12月10日
文部科学省



文部科学省
MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

第13回ITER理事会の日程等

日程： 2013年11月20日(水)－21日(木)

場所： ITER機構本部

議長： 高津 日本原子力研究開発機構特別研究員

出席者：

日 本： 藤木 文部科学審議官 他

欧 州： シーグラール 欧州委員会研究・イノベーション総局長 他

米 国： ノーテク エネルギー省科学・エネルギー担当副次官 他

ロシア： ボロフコフ ロシア連邦政府国防産業委員会委員長 他

中 国： 曹(ツァオ) 科学技術部副部長 他

韓 国： 李(イ) 未来創造科学部研究開発政策局長 他

インド： グローバー 原子力委員会委員 他

ITER機構： 本島 機構長 他



第13回ITER理事会の主な議題

(1)開会挨拶

(議長、各極代表、機構長)

(2)ITER機構活動報告、諮問委員会等からの報告

(3)プロジェクトの進展と課題

(4)その他



第13回ITER理事会の結果概要(1)

ITER機構からの活動報告

- 2013年9月末現在、全職員数498名。＜うち専門職員316名、支援職員182名＞
- トカマク装置並びに隣接した建屋の建設及びエンジニアリング作業等について主要な土木作業のための契約が締結された。
- ITER機構は、ITERの最も大きく重い規模の機器のレプリカを800トントラックに積み込み、104kmの旅程を輸送して物理的耐久性の試験を行う試験輸送の成功を報告した。なお、実際のITER機器輸送は2014年夏から始まる予定。



トカマク基礎工事
(2013年9月現在)



試験輸送の様子
(2013年9月)



第13回ITER理事会の結果概要(2)

プロジェクトの進展と課題

- 理事会は、ITERの建設及び組立てが進展し、計画が前例のない技術的に複雑で挑戦的な段階を迎えたことに留意。
- これまでの研究開発の成果を踏まえ、運転初期からタングステン製ダイバータを用いるというITER機構の提案を承認。この決定はコスト削減にも寄与するものである。
- プラズマの安定性を改善する真空容器内コイルの設計及び試作開発の進捗に留意し、計画のベースラインに含めるとのITER機構からの提案を承認。
- ITER協定に基づき2年に1度実施している、ITER機構運営の内部評価の結果が報告され、理事会は、ITER計画がスケジュール遅延回復等の直ちにに取り組むべき課題に直面しているという評価人の見解に同意。本件の対応として行動計画を来年1月半ばまでに作成し、2月初めの臨時理事会にて評価されることを決定。



第13回ITER理事会の結果概要(3)

理事会及び補助機関の人事について

2014年1月1日より1年の任期で以下の通り理事会等の議長等が選出された。

- ギューンス・リー氏がITER理事会の副議長として選出された。
- オレグ・フィラトフ氏及び鎌田裕氏がそれぞれ科学技術諮問委員会の議長及び副議長として選出された。
- チャシュ・ティエン氏及びアンドラス・シーグラール氏がそれぞれ運営諮問委員会の議長及び副議長として選出された。
- テストブランケットモジュール計画委員会の議長としてマウリッツ・ガスパロット氏が再任され、ボン・グエン・ホン氏が副議長として任命された。
- プレマン・ディナラ氏が会計検査委員会の議長として任命された。



第13回ITER理事会の結果概要(4)

その他

- 2014年6月18日－19日に第14回ITER理事会をサンクトペテルブルクで開催することを決定。
- 第16回ITER理事会(2015年6月開催予定)を日本において開催することを提案。



＜第13回ITER理事会の様子＞



＜日本の理事会メンバー＞